スポーツ庁
JAPAN SPORTS AGENCY

令和6年度

地域スポーツクラブ活動体制整備事業

地域スポーツクラブ活動への移行に向けた実証事業

長野県 飯田市

自 治 体 名 ： 長野県飯田市
担 当 課 名 ： 教育委員会生涯学習･スポーツ課
電 話 番 号 ： 0265-22-4511

1.自治体の基本情報

スポーツ庁

基本情報

面積	658.66 ㎢
人口	94,773 人
公立中学校数	9 校
公立中学校生徒数	2,673 人
部活動数	74 部活
市区町村の協議会・検討会議等の設置状況	設置済
市区町村の推進計画・ガイドライン等の策定状況	策定済

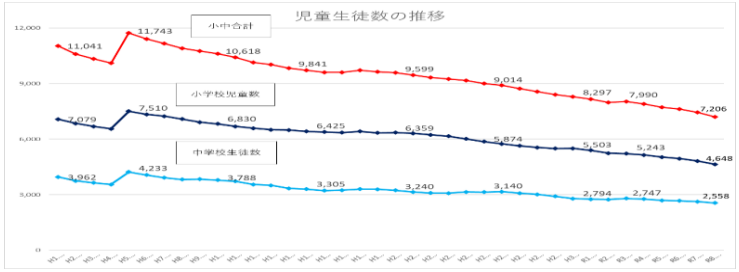
地域連携・地域移行における市区町村の現状・課題

飯田市における少子化は、深刻な問題であり、平成元年度から令和４年度までの30年間に約４割減少している。今後も少子化は進み、市内全体では、10年後に更に1割減少することが予想されている。実際市内中学校でも以前に比べると部活動数が減少しており、令和５年～6年にかけて、３部活動が廃部となっている。

また、少年スポーツの過熱化による中学生の運動部活動への加入率の低下が進んでいる。

約6割の部活動顧問が、これまで経験したことのない種目を担当しているのが実情である。こうしたことは、生徒にとって満足のいく指導を受けられないというだけではなく、教員側にとっても大きな負担を強いられることになっている。

地域の指導者が、中学校部活動の指導に当たる機会は増えてはいるが、種目によってあるいは地域によっては、人材確保が難しい状況である。市内９校74部活動において、外部指導者が入っているのは45部活動にとどまっている。地域クラブ活動に移行するためには、地域の指導者の確保と育成は最重要課題である。



部活動数/人数	R3				R4				R5				R6			
	部活動数	人数	生徒数	加入率	部活動数	人数	生徒数	加入率	部活動数	人数	生徒数	加入率	部活動数	人数	生徒数	加入率
飯田市全体	100	2,269	2,764	82.1	100	2,150	2,728	78.8	93	1,976	2,654	74.5	93	1,916	2,627	72.9
運動部	68	1,463	2,764	52.9	68	1,372	2,728	50.3	61	1,260	2,654	47.5	61	1,241	2,627	47.2
文化部	32	806	2,764	29.2	32	778	2,728	28.5	32	716	2,654	27.0	32	675	2627	25.6

【課題１】
生徒数減少に伴う部活動数の減少と競技や活動の選択肢の少なさ

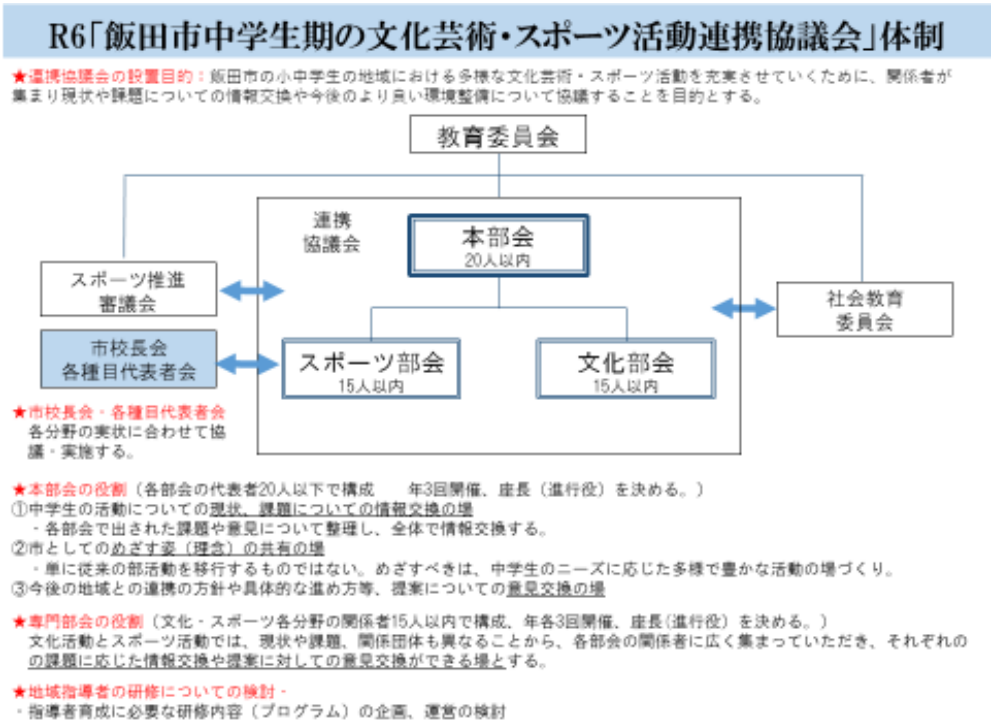
【課題２】
専門的な知識や競技経験がない学校教職員による指導　地域指導者確保と育成

2.実証内容と成果

スポーツ庁

運営体制・役割

●運営体制図（市区町村における推進体制図）



●行政組織内での役割分担

◉教育委員会

・生涯学習・スポーツ課が部活動改革の主幹となり、学校教育課と連携を図りながら推進している。

◉首長部局

・必要に応じて関係各課と連携を図っている。

年間の事業スケジュール

令和６年４月	全市型競技別スポーツスクール リーフレット配布
令和６年５月	全市型スポーツスクールスタート 第１回連携協議会 各中学校部活動現状の把握
令和６年６月	指導者研修会実施（年5回） 連携協議会スポーツ・文化部会
令和６年７月	学校顧問・地域指導者代表者会
令和６年８月	スポーツ推進委員会研修会
令和６年９月	各競技団体との懇談 第２回連携協議会
令和６年10月	小学５・6年生へのアンケート調査
令和６年11月	冬期ジブンチャレンジ期間　～１月
令和７年１月	部活動アンケート調査 （中１・２年生徒、教職員）
令和７年２月	第3回連携協議会
令和７年３月	地域移行推進計画策定

2.実証内容と成果

スポーツ庁

地域スポーツクラブ活動の運営実績

①全体に関すること

中学校数	4 校	実施した地域クラブ総数	5 クラブ
ケース別クラブ数	A：部活動を地域移行した形のクラブ数（及び移行された部活動数）		5 クラブ（陸上部・バレー部・サッカー部・女子ソフトボール部）
	B：部活動にはない種目など、新規のクラブ数		0 クラブ
全体の指導者数	21 人	全体の運営スタッフ数	12 人

②各クラブに関すること

クラブ名	運営団体種別	種目	実施回数	実施時間帯	参加者（学年別）	実施期間	活動場所	指導者数	運営スタッフ数（他クラブと兼務）	会費	大会参加方法
南信州ジュニアアスリートクラブ	飯伊陸上競技協会	陸上	平日：水・金、休日土日のどちらか1日	18:00～19:30 休日3時間	男女中学生 1・2・3年	1年間	飯田市松尾陸上競技場	9 人	3人（内、兼務3人）	年会費 12,000 円	中体連・その他：地域クラブ
V.C.SUNRISE	民間クラブ	女子バレーボール	平日：月・木、休日は土日どちらか1日	19:00～21:00 休日3時間	女子中学生 1・2・3年	1年間	旭ヶ丘中学校	7 人	6人（内、兼務1人）	月会費 1,000 円	中体連：部活動 その他：地域クラブ
ＦＣ ＡＳＡＨＩ	民間クラブ	サッカー	毎週土・日のどちらか1日	8：30～11：30	男子中学生 1・2・3年	1年間	旭ヶ丘中、鼎中、川路河川敷グランド	3人	5人（内、兼務 3人）	月会費 500 円	中体連：部活動 その他：地域クラブ

③その他、体験会やイベント等の開催実績

●全市型競技別スポーツスクールの実施（バスケット、サッカー、バドミントン等）競技力向上型参加者969名、体験型参加143名、出張型中学校訪問２回
●スキー、スノーボードスクールの実施　参加者　７名　　●飯田市「冬季ジブン・チャレンジ期間」（11月～１月）学校部活動オフ期間に主体的にやりたいことに取り組む。

2.実証内容と成果

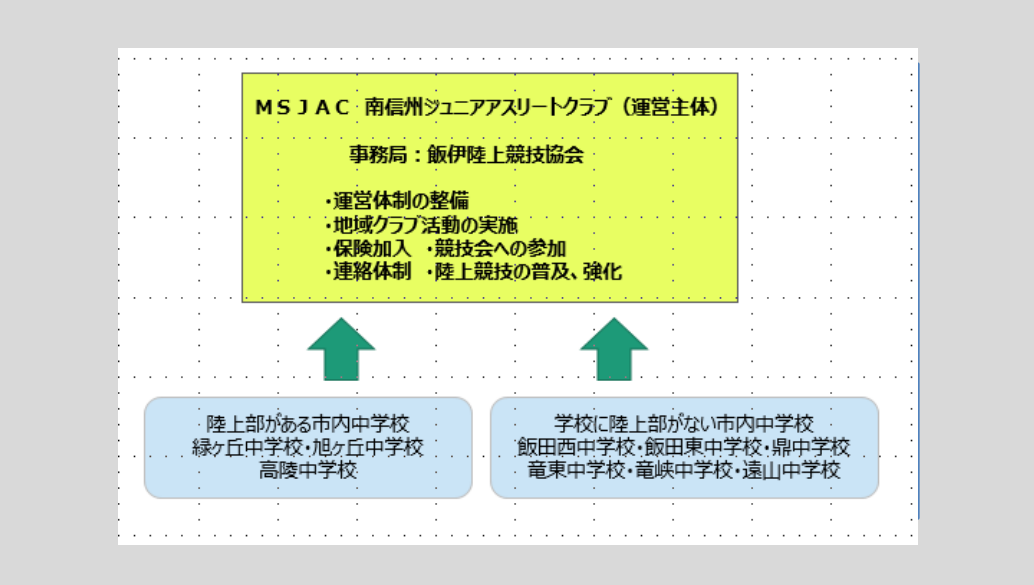
スポーツ庁

主な取組例

●南信州ジュニアアスリートクラブ　活動概要

地域クラブ活動で実施した種目	陸上
運営団体名	南信州ジュニアアスリートクラブ
期間と日数	平日：水･金、 休日：土日のどちらか1日 年間を通じての活動
指導者の主な属性	飯伊陸上競技連盟
活動場所	飯田市松尾陸上競技場
主な移動手段	保護者の送迎
１人あたりの参加会費等（年額）	年会費 12,000 円
１人あたりの保険料	スポーツ安全保険 生徒１人あたり：800円/年

●運営体制図（地域クラブ活動を実施する際の運営体制図）



●指導者や運営スタッフなどの役割分担等

●統括責任者：飯伊陸上競技協会会長

役割：活動における管理者として、学校、保護者との連携を図る。

●コーチ　9名

役割：生徒への陸上競技の技能向上を目指し、指導を行う。

●運営者

役割：保険加入、会計、練習計画、大会参加登録等の業務を行う。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保障・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取組
オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組

スポーツ庁

取組内容

●取組項目名　ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

取組事項

・部活動地域移行支援コーディネーターの配置
（統括的役割１名、エリア担当2名）

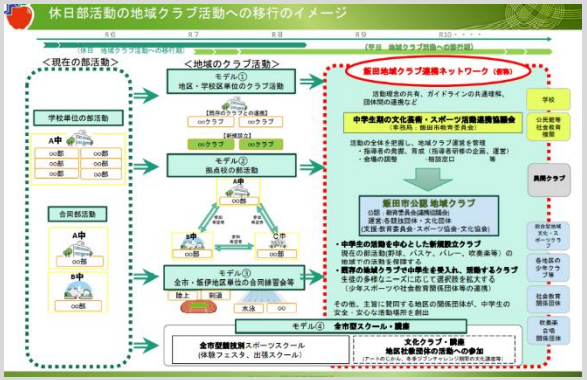
・飯田市中学生期文化芸術スポーツ活動連携協議会実施
（本部会３回、部会２回）

・スポーツ関係団体との連携による活動の場の充実

・学校、保護者、地域指導者への理解の促進

取組の成果

・部活動地域移行支援コーディネーターによる実態把握と関係団体との協議・聴き取りの実施により、Ｒ８年度までの休日部活動の地域移行へのスケジュールを明確にすることができた。
・各種目において、学校部活動顧問と地域指導者代表者会を実施することができ、各種目の現状と移行に向けた推進方法を検討することができた。（2回実施）
・学校教職員、保護者、地域指導者への説明（市内小中学校訪問計48回、校長会、教頭会への参加6回、スポーツ協会との懇談６回）
・実施から５年目となる飯田市全市型競技別スポーツスクールの成果と課題を明確にし、次年度以降の取組の方向性を明確にすることができた。
・推進計画を策定することができた。
・各中学校長との懇談や学校運営協議会、部活動保護者会等での協議を進める中で、各中学校が、Ｒ８年度までの具体的な移行イメージをもてるようになってきた。



【移行スケジュールイメージ図】

コーディネーターの具体的な動きの実績

・学校、保護者、地域指導者等への説明・周知
・「広報いいだ」「 YouTube」（飯田ケーブルテレビ）作成、広報
・中学校部活動運営協議会（14回）小学校６年生と保護者への説明会の実施（14回）部活動保護者会での説明会の実施（8回）
・小学校５・６年児童・保護者アンケートの実施

今後の課題と対応方針

安心安全が担保されている地域クラブを飯田市公認クラブとして、移行を進めていく。その際に地域指導者の量と質の確保が大きな課題である。まずは、部活動指導員を配置し、学校の顧問と両輪で進めていくことで、運営面でも関わっていただける人材の発掘を進める。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保障・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取組
オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組

スポーツ庁

取組内容

●取組項目名　イ：指導者の質の保障・量の確保

指導者研修の内容

	日程・講師等	研修内容
第1回	6月6日 ・講師 筑波大学スポーツ局 稲垣先生	・部活動指導員11名に対して、部活動指導員の業務と責任について説明 ・学校との役割分担の確認 ・飯田市が定める「指導者の心得6カ条」の確認 ・悩みの共有、今年度の研修内容について
第2回	8月26日（月） ・講師　消防士	・救命対応について ・安全管理と事故対応について ・熱中症対策について
第3回	10月31日（木） ・講師　関　賢一 株式会社BCF代表	・発達段階に応じた指導のあり方について ・科学的トレーニングについて ・身体機能チェック、あらゆる活動の基となる体幹トレーニング
第4回	12月15日（日） ・講師　松井　英幸 元ラグビー高校日本代表監督、	・ハラスメント防止について ・パワハラで人生をしくじった元名監督に学ぶ　『変わる勇気』
第5回	2月19日（水） ・講師　友竹浩之 飯田短大教授	・栄養と食事について ・スポーツ障害とその予防 ・地域指導者としての成果と課題の共有

指導者研修の参加実績

・開催日：6月６日（木）8月26日（月）10月31日（木）
　　12月15日（日）2月19日（水）
・開催回数：5回
・参加人数：のべ104人

受講者の声

・自身より年上の方が、自身を変えられたことを知り、「私自身も変えられる」と励みになりました。
・「指導者の願望」と「生徒の願望」は常に考えなければならないと感じました。指導者が何を目標にしているか。指導者がどんな立場でいるかで変わってくる。「勝つこと」が最大の目標である時に間違いが生まれるのではないか。今後の自分の指導へ役立てることができる知識等を得ることができました。
・傾聴する、受容することについて、理解できてよかったです。選手を理解して行動したい。声がけの仕方が大事だと改めて感じた。
・選択理論心理学に基づいた、内的外的コントロール、価値観、心構えなどをより詳しく学ぶことができました。

今後の課題と対応方針

・市の目指す方向性を理解していただくための研修内容の吟味を図っていく必要がある。
・指導者の質レベルをあまり高く設定すると量の確保が難しくなる。飯田市では、安心安全面を大切に基本的な心構えを確認するところから始めていこうと考えている。（飯田市「指導者心得６カ条」の共有等）

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保障・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取組
オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組

スポーツ庁

取組内容

●取組項目名　オ：内容の充実

取組事項







活動の詳細

参加人数	1,112人	指導者数	のべ20人程度
属性	スポーツ協会・教育委員会生涯学習・スポーツ課		
具体的な内容	・全市型競技別スポーツスクール　①中学生に対し、いろいろなスポーツ活動の選択肢を示し、スポーツ文化の普及と発展をめざす。②スポーツを通じて、他校の中学生との交流を図る。③スポーツを楽しむ中学生の増加をめざす。 ・参加者数(１月末)：競技力向上型969名　体験型143名　出張型２回実施 ・「スキー・スノーボードスクール」の実施　1/11（２人）、2/8（５人）		
子供の声	・「他校の生徒との交流、仲間が増える」と　答えている生徒が多い。他校との交流により生徒の人間関係は広がり、楽しむことができている。		
関係者の声	・各競技の裾野を広げるのに役立っている。		
運営経費	・市からスポーツ協会へ 運営負担金として1,329,000円 ・参加者負担金　500円/1回		

種目	種別	累計（通年）	
		回数	人数
バスケットボール初心者	体験型	30	132
バスケットボール男子	競技力向上	26	289
バスケットボール女子	競技力向上	25	581
サッカー	競技力向上	15	99
バドミントン	体験型	2	6
アーチェリー	体験型	1	2
ソフトボール	体験型	1	1
スノーボード（スキー）	体験型	2	9
出張イベント	出張	3	

2.実証内容と成果①

スポーツ庁

総括・成果の評価・今後に向けて

●総括



・連携協議会等での協議を踏まえた上で、飯田市移行推進計画を策定し、目指す方向性や理念、スケジュールを確定することができた。
・中学校各部活動種目代表者会を開催し、移行に向けた現状の共有と移行に関わる課題の整理した。
・中学生や一般市民への社会教育関係団体の活動紹介、学校、保護者、地域指導者等への説明・周知・アンケート等を実施した。
・地域移行に向けた飯田市の方針を「YouTube」（飯田ケーブルテレビ）で広報した。
・中学校部活動運営協議会（14回）、小学校６年生と保護者への説明会の実施（14回）、部活動保護者会での説明会の実施（8回）、指導者研修会（５回）の実施。

●成果の評価

・飯田市としての部活動の地域クラブ活動への移行に向けた推進計画を策定することができた。
・飯田市としての目指す方向性と理念、令和８年度までの休日部活動の地域クラブ活動への移行スケジュールも作成し、具体的に進める段階になってきている。
・中学生が在籍するクラブで、安全・安心が担保され、生徒の主体性を重視した活動ができる団体に対して、飯田市教育委員会が認定する飯田市公認地域クラブとしていくことで、地域移行を進めていくことを決定した。地域クラブ立ち上げの支援の仕組みを今年度末までには確定し、来年度からは実際に公認クラブの募集に入っていく予定である。飯田市として着実に前に進むことができたと考えている。
・地域指導者の質の向上のために年間５回の研修会を実施することができた。

●今後に向けて

・指導者の確保と質の担保という点では、大きな課題が残っている。県の指導者リストを活用しつつ、飯田スポーツ協会と連携を図り、飯田市独自の指導者確保の仕組みを構築していく。飯田市公認地域クラブへの支援内容の確定とその後の活動内容の確認のため、代表者会を設置し、安心安全で持続可能なクラブ活動を目指していく。
・今年度からスタートしている地域指導者の研修会を更に充実させていく。
・公認地域クラブが、活動場所を優先的に使用できる仕組みを来年度中に決定していく。情報を一元化するプラットフォームの構築が必要である。

2.実証内容と成果③

スポーツ庁

アンケート結果・広報資料





【保護者・地域への広報】 出典:広報いだ12月号

令和６年度部活動に関するアンケート結果

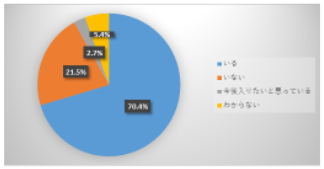
1　アンケート概要

（１）対象生徒／調査対象：市内小学校５・６年生全員（小学校５年生469人、６年生517人）
　　対象保護者／調査対象：市内小学校５・６年保護者（787人）

（２）実施期間／令和６年10月28日～令和６年11月15日

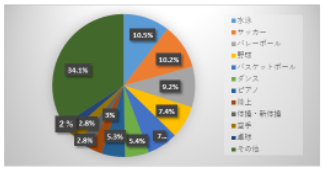
小学校(5･6年児童)アンケート結果

① 現在学校以外のクラブ・教室等で、スポーツや文化芸術活動に取り組んでいますか。



【考察】
・既に７割以上の児童が、何らかのスポーツ・文化芸術関係の活動に参加している。

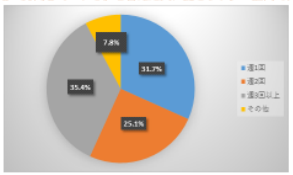
② 質問①で「いる」と答えた人に聞きます。どんな競技・種目に取り組んでいますか。



【考察】
・これまでの中学校に存在していない多種目・分野に参加している。

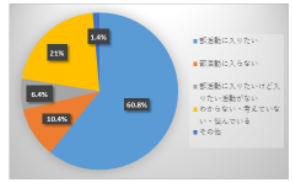
小学校(5･6年児童)アンケート結果

③ 質問①で「いる」と答えた人に聞きます。１週間で、全部で何日参加していますか。



【考察】
・およそ９割の児童が週３回以内の活動を既に行っている。中学校部活動の頻度よりも少ない。

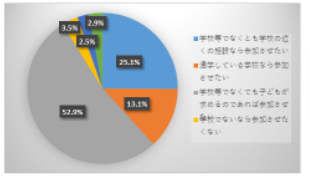
④ あなたは、進学する中学校で学校部活動に入ろうと思いますか。



【考察】
・これまでの部活動加入率よりやや少ないが、ほぼ同等程度の希望者がいる。
・悩んでいる児童も一定数いる。部活動に入らないと考えているのは、10%程度であるので、悩んでいる、考えていないという児童が多い。

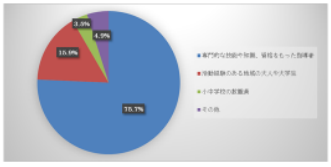
小学校(5･6年保護者)アンケート結果

① 休日の学校部活動がなくなった場合、お子様を地域クラブ活動に参加させたいですか。



【考察】
・こどもが求めるものであれば参加させたいと考えている保護者が半数を超えている。できれば学校の近くを望んでいる。

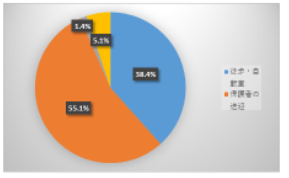
② お子様を地域クラブ活動に参加させるとしたら、どのような指導者がいいですか。



【考察】
・保護者のおよそ７.５割は専門的な技能や知識、資格をもった指導者を求めている。

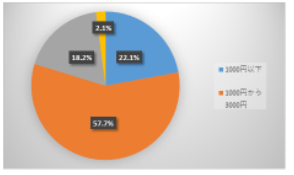
小学校(5･6年保護者)アンケート結果

③ お子様の移動手段はどうしますか。



【考察】
・保護者の送迎、子どもの徒歩・自転車を考えている保護者が９割を超えている。

④ 地域クラブ活動での参加費等は、月どの程度の額が適当だと思いますか。



【考察】
・月の参加費については、1000円から3000円が適当な額だと考えている保護者が、最も多い。3000円から5000円が適当だと考えている保護者を含めると７割を超える。
・1000円以下を望んでいる保護者が、２割程度いる。

【アンケート結果一部】 出典:飯田市校長会との連携によるアンケート調査

2.実証内容と成果④

スポーツ庁

参考資料（活動写真）



【武道体験フェスタ】



【秋の体験フェスタ】



【第3回指導者研修会】



【全市型競技別スポーツスクール】

2.実証内容と成果

スポーツ庁

地域スポーツクラブ活動の実施に至るまでの合意形成プロセス

令和５年	令和６年		令和７年		令和８年
連携協議会設置、課題の整理、検討開始	推進計画策定、拠点校の選定、各関係団体からの聴き取り	飯田市公認地域クラブの仕組みづくり、保護者への理解促進	各競技団体との連携によるネットワークづくり	市公認地域クラブ活動の募集、活動開始、学校との連携	公認クラブを中心にしたネットワークの拡大

●ステークホルダー

小中学校長会、公民館、保護者代表者、飯田市スポーツ協会、
各競技団体、スポーツ少年団、総合型地域スポーツクラブ、中体連事務局、
コーディネーター、市教委

●経過

令和5年度より中学生期の文化芸術・スポーツ活動連携協議会を設置し、令和６年度末には、令和８年までに休日の移行を進める推進計画を策定した。令和６年度は、スポーツ協会や各競技団体と協議を重ね、生徒が安心安全な中で活動できることを目指して、飯田市が公認する地域クラブを立ち上げていくための仕組みづくりを進めた。

●実施内容

地域移行を進めるケースとしておよそ４つのモデルケース（中学校単位、拠点校単位、飯田下伊那単位、体験型）を想定し、各中学校、各競技の実情に合わせて地域クラブ活動への移行を検討した。その結果、令和６年度には、学校単位では１クラブ、拠点校単位では３クラブ、飯田下伊那単位では１クラブが活動を始めた。

●実施にあたって生じた課題

活動場所の優先的な予約システムや備品等の保管場所についての改善が指摘されている。来年度は、学校教育施設の開放規則を見直していく方向で考えている。また、種目によっては指導者の不足が大きな課題であり、スポーツ少年団や地域の企業等へ指導者募集を広げていくことを検討している。指導者を確保するには、ある程度の報酬を支払う必要があり、保護者の理解を得ながらその仕組みづくりを進めていく。送迎の問題も大きな課題であり、中山間地の生徒の選択幅を広げるため送迎のあり方も検討している。

●今後の展開

令和８年夏の中体連、コンクールが終了後からは、市内すべての中学校において、休日の学校部活動を実施しない。市からクラブ創設のための財政的支援も検討している。また、生徒の安心安全な活動としていくために、指導者の質の向上を目指した研修会を年５回実施していく。地域クラブ活動の紹介動画やパンフレットを作成し、生徒に選択肢を示させるような広報も進めていく。

3.今後の方向性

スポーツ庁

地域連携・地域移行の推進に向けたロードマップ

	2月	3月	令和7年度	令和8年度
連携協議会 専門部会	・2/4 教育長レク ・2/12　第3回連携協議会（推進計画修正案、今後の取組、次年度連携協議会体制　等）	・～3末　次期委員選出、確定	◎協議会の役割、取組進捗状況、ネットワーク構築、平日移行競技、公認クラブ管理　等 ・5月　第１回連携協議会 ・9月　第２回連携協議会 ・2月　第３回連携協議会 ※必要に応じて、文化・スポーツ部会、代表者会を開催	◎平日移行についての推進計画策定　等 ・5月　第１回連携協議会 ・9月　第２回連携協議会 ・2月　第３回連携協議会 ※必要に応じて、文化・スポーツ部会、代表者会を開催
推進計画策定 リーフレット作成 周知促進	・2/10　スポーツ推進審議会　2/12連携協議会にて推進計画最終案確認 ・2/18　定例教育委員会にて最終案確認 ・2/18～概要版　原稿作成・校正（週休いつかとの打合せ） ・3/7 最終校正～印刷　概要版完成・配布・HP公開		・随時　各小中学校、地域説明会（拠点校３エリア）	・随時　各小中学校、地域説明会（拠点校３エリア）
部活動 活動指針の見直し		・3/末　修正の方向性の検討	・4～6月　地域クラブ活動との連携整理 ・6月　校長会にて意見集約 ・～7/末　修正案、起案 ・8月　定例教委報告、施行	・4～6月　地域クラブ活動との連携整理 ・6月　校長会にて意見集約 ・～7/末　必要に応じて修正、起案 ・8月　定例教委報告、施行
連携ネットワーク運営体制の構築	・2/12　連携協議会　考え方について提案（公認クラブ制度、ネットワークの役割　等）		・4～8月　ネットワーク構築に向けた関係者との懇談 ・～9月末　ネットワーク組織、役割確定、運営　次年度予算計上 ・随時　公認クラブ活動進捗管理、各種相談業務　等	・随時　公認クラブ活動進捗管理、各種相談業務　等
公認クラブ制度策定・運用 公認クラブ補助要綱策定・運用	・1/末　公認クラブ制度案、公認クラブ補助要綱案　作成 ・1/末　校長会、協会、吹奏楽連盟等関係機関への確認、意見聴取 ・2/12　連携協議会にて検討 ・2/18　定例教育委員会にて報告、意見聴取 ・2/末　起案（市長決裁）・確定 ・3/13　定例教育委員会にて報告 ・3/末　募集チラシ、HP掲載準備		・4/中～　公認クラブ募集　～5月末（一次締切） ・～6/末　公認クラブ審査・確定 ※必要に応じて随時公募、確定していく ・9/末　令和８年度予算要求 ・1/中～　令和8年度公認クラブ募集開始	・4/中～　公認クラブ募集　～5月末（一次締切） ・～6/末　公認クラブ審査・確定 ※必要に応じて随時公募、確定していく ・9/末　令和８年度予算要求 ・1/中～令和8年度公認クラブ募集開始
・様々な活動を体験できる機会の創出 （全市型競技別スポーツスクール）	・2/6　スポーツ協会との打合せ、各競技団体との協議（体験・出張型計画案検討） ・～3/中　次年度計画案作成、確定 ・3/中～チラシ原案作成		・4/中～　開催チラシ配布、募集 ・6月～3月末　体験・出張型　開催 ・～9/末　上半期振り返り、下半期の確認、次年度計画案の協会との協議、予算計上 ※スポーツスクールの役割を確認しつつ進める。	・令和７年度の様子により実施要否を決定 ※エンジョイスクエアとの役割分担の明確化が必要となる
様々な活動を体験できる機会の創出（文化系）	・1/18　アートの時間 ・1/26　冬季ジブン・チャレンジ　文化講座開催 ・2月 関係団体との振り返り ・3/末　次年度以降の計画案作成		・4/中～　開催チラシ配布、募集 ・6月～3月末　体験講座　開催 ・9/末　次年度開催に向けての関係者との協議 ・10/末　令和８年度予算案	・令和７年度の様子により実施要否を決定 ※エンジョイスクエアとの役割分担の明確化が必要となる
様々な活動を体験できる機会の創出（社会教育関係団体との調整）	・1/20～　公民館主事会への説明、社教団体へのアンケート依頼　～2/末 ・2/末　集約、まとめ ・3/末 中学生受入れ可能団体一覧表作成		・6月～　一覧表配布、HP公開 ・2月～次年度一覧表作成 ・～3月末配布、HP更新	・4月～　一覧表配布、HP公開 ・2月～次年度一覧表作成 ・～3月末配布、HP更新
施設活用・備品管理等のルールづくり	・～2月末活動場所（教室、テニスコート等）状況、利用希望調査（学校・各団体等） ・～3月末　利用者の確定、活動場所の確定		・4月~7月　学校テニスコート利用についての説明（まちづくり、近隣住民等） 現行規則の時間変更、テニスコート利用についての規則改正 ・9月議会　学校開放使用料徴収条例の改正（テニスコート夜間照明等） ・4月～　音楽室使用についての検討	
指導者の確保 （部活動指導員） 含む　勤務・給与管理　等	・1/中～　各学校部活動指導員確認、確定 ・2/末　確定、各学校通知 ・3/13　定例教委報告		・4月　説明会（処遇、研修会履修、事務手続き　等） ・毎月　勤務報告書の作成→提出 ・～9/末　令和８年度部活動指導員確認、予算要求 ・1/中～　令和８年度部活動指導員確認 ・2/末　〃　確定　各学校通知 ・3月　定例教委報告	・4月　説明会（処遇、研修会履修、事務手続き　等） ・毎月　勤務報告書の作成→提出 ・～9/末　令和８年度部活動指導員確認、予算要求 ・1/中～　令和８年度部活動指導員確認 ・2/末　〃　確定　各学校通知 ・3月 定例教委報告
指導者の確保 （部活動指導員以外）	・～3/末指導者募集吹奏楽、合唱、各競技団体等 県登録者確認、関係団体への調査 等		・～4/末　指導者リスト作成 ・5～3月指導者リスト確定・各クラブへの紹介（マッチング）　等 ・随時　指導者追加募集（HP） ・3/末指導者リスト更新・各クラブへの紹介	・随時　　指導者リスト更新・各クラブへの紹介 指導者追加募集
指導者の質の確保	・2/12　協議会にて、次年度研修会、指導者育成方針の検討 ・3/末　次年度研修会計画案確定		・4月～　研修会開催周知（部活動指導員、関係団体等） ・5～2月　年間５回実施（5月.7月.8月.11月.2月予定）研修会修了証の発行 ・3月次年度計画案策定、周知	・4月～　研修会開催周知（部活動指導員、関係団体等） ・5～2月　年間５回実施（5月.7月.8月.11月.2月予定）認定証の発行 ・3月　次年度計画案策定、周知
・冬季ジブン・チャレンジ期間の取組 ・部活動アンケート	・1/末　部活動アンケート項目抽出 ・2/1～2/末　部活動アンケート実施 ・3月 定例教委にて報告		・～8月　校長会にて取組意義についての説明、昨年度好事例等の振返り ・11～1月冬季ジブン・チャレンジ期間の実施(ワークブック配布) ・2/1～2/末　部活動アンケート実施、まとめ ・3月定例教委にて報告	・8月校長会にて取組意義についての説明 ・11～1月冬季ジブン・チャレンジ期間の実施(ワークブック配布) ・2/1～2/末　部活動アンケート実施、まとめ ・3月　定例教委にて報告
生活困窮家庭への参加費補助	・～1/末　要綱修正 ・2/12　連携協議会修正案提示・決定、起案 ・3月定例教委修正案報告		・4月施行、家庭周知、HP掲載 ・4月～5月　周知 ・10月　申請(前期）→照合→交付決定→交付 ・3月末申請(校期）→照合→交付決定→交付	・4月～5月　周知 ・10月申請(前期）→照合→交付決定→交付 ・3月末申請(校期）→照合→交付決定→交付
送迎			・4～2月　平日移行を見据えた送迎支援についての協議 （課題整理、民間事業者等との協議） ・3月 方向性の策定	・～9/末　関係団体との協議、次年度試行についての検討 ・10/末 令和9年度予算計上

休日学校部活動から地域クラブ活動への移行完了（夏の大会・コンクール後）

ゆるやかな公認クラブ連携ネットワーク体制完成（総会）

平日学校部活動の移行に向けての推進計画案　策定（推進スケジュール策定）